



構造体を活かした選手が肩を組むイメージの外観 太陽光発電504kwを設置

# パナソニックスタジアム吹田

## review

### 選評

Jリーグガンバ大阪のホームグラウンドとなるサッカー専用スタジアムが万博記念公園内に建設された。「サッカーを純粹に楽しんでいただくためのスタジアムをつくりたい」という夢が具現されたのだった。

これまでのホームグラウンドは収容人数二万の老朽化が著しい陸上競技用施設であり、ガンバ大阪にとって国際基準のサッカー専用スタジアムの建設は悲願であった。そこで考え出されたのが、きわめてユニークな事業スキームである。まず、発注者である「スタジアム建設募金団体（関西財界・日本サッカー界・ガンバ大阪）」が民間より一四〇億円の資金を募った。大阪商人の心意気を頼みとするだけでなく、ふるさと納税制度も活

用するなど市民も募金しやすい工夫がされた。七二二社、三四、六二七名の浄財をもとに大阪府の所有地に建設されたスタジアムは吹田市内に寄贈され、その運営を指定管理者として（株）ガンバ大阪運営が四八年間契約で担っている。

CMとして安井建築設計事務所が建設事務を支援し、二〇二〇年に指名型プロポーザルで設計施工者が選定された。しかし、東日本大震災による建設物価の上昇、ガンバ大阪のJ2降格による寄付の低迷など、プロジェクトの存続が危ぶまれたが、関係者の思いは一層強いものとなり、それに呼応するかのようガンバ大阪もJ1復帰、三冠達成を果たし、募金団体設立から五年半の歳月をかけてスタジアムの完成に漕ぎ着けた。

財源を税金に依存しないため選択と集中が明確で、「観客がサッカーを最高に楽しめること」と「運営者の維持管理を最小とすること」が徹底された。観客席は最前列からタッチラインまで七段と選手の息づかいが聞こえる臨場感あふれるもので、四周の観客席を複層化することにより、平面を最小化（国内同規模事例の約六割）している。また、四万席を覆う屋根は斜め方向を主架構とする3Dトラスと屋根免震を導入し約四割の軽量化をはかるとともに、屋根レベルを低く抑え雨や日照の影響を最小化するなど、コンパクト化が貫かれている。



どこからでもピッチが見えるコンコース

〔2018年 第59回 BCS賞受賞作品〕太田市美術館・図書館／高知県立高知城歴史博物館／コープ共済プラザ／新豊洲Brillia ランニングスタジアム／すみだ北斎美術館／洗足学園音楽大学 Silvermountain&Redcliff (e-cube)／空の森クリニック／高崎アリーナ／多治見市火葬場華立やすらぎの杜／立川市立第一小学校・柴崎学習館・柴崎図書館・柴崎児童保育所／デンソーグローバル研究所・保養所「AQUAWINGS」／日本無線先端技術センター／パナソニック スタジアム吹田／羽田クロノゲート／益子町地域振興拠点施設「道の駅しこ」／〔特別賞〕名駅一丁目計画（JRゲートタワー、JPタワー名古屋）



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計、施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2018年で59回を数えます。





管理運営者より

Message from Client

株式会社ガンバ大阪  
代表取締役社長

山内隆司 Takashi Yamauchi

### 日本初「みんな」でつくるスタジアム

「世界標準のサッカー専用スタジアム」でサッカーを楽しむという夢を実現するプロジェクトは、企画段階から募金・設計・施工と一貫して多くの人々の『熱い思い』で突き動かされています。

2015年に完成したスタジアムは、サッカー専用スタジアムならではの臨場感・最新のテクノロジーで来場されたすべての人に感動を与えています。また、日本にサッカーを社交の場として楽しむ文化を創りたいという挑戦も年々定着しつつあります。

現在では、ガンバ大阪の試合のみならず、FIFA国際大会・天皇杯・皇后杯・日本代表戦等も開催され、文字通り日本を代表するサッカー専用スタジアムのひとつとなっています。

これからもサッカーのみならず、スポーツ・健康・体力向上のシンボルとして地域に根ざした取組みを推進してまいります。



設計者より

Message from Architect

株式会社竹中工務店  
大阪本店設計部 設計第6部門3グループ 副部長

浜谷朋之 Tomoyuki Hamaya

### 大きな建築をコンパクトにつくる

募金と助成金のみで建設するという特殊なスキームの中で、サッカーを最高に楽しめる環境と、コスト低減・工期短縮のための高い生産性、そして完成後のビジネスがうまく継続するための維持管理の容易性を兼ね備える建築が求められました。「コンパクトにつくる」という基本方針のもと、早期から作業所との協業を重ね、あらゆる建築要素を最小化するプロセスを経て、本当に必要な躯体と設備と少しの仕上材が残りました。これらを美しく整え、かつホームスタジアムの独自性を表現することが計画の中心だったと思います。

コンパクト化によって密度の高い劇場的な観戦環境が生み出され、現在、年間40万人を超える観客が訪れています。これからもガンバサポーターと地域市民に愛されながら、この状況が続いていくことが最大の願いです。



施工者より

Message from Builder

株式会社竹中工務店  
生産本部生産企画部 部長(当時 作業所長)

松尾享 Susumu Matsuo

### みんなの想いと技術の追求が生んだ世界に誇る劇場型スタジアム

「募金でつくるスタジアム」として800人もの関係者・サポーターの方々が集まり、それぞれが描く夢を抱いてキックオフしたプロジェクト。工期、労務不足、コスト等の様々な課題に対し、着工の1年半前から設計部門・技術部門・作業所が連携し、大幅な工期短縮や抜本的な省人化の実現と機能面・安全面でも優れた構造形式・建築デザイン・設備方式のあり方を追求しました。その結果生まれた明快で無駄のない大空間デザインに対し、施工段階では世界でも類のない基礎フルPCaや100tにも及ぶスタンド受梁の超大型PCa地組など、仮設や労務を徹底的に排除した大胆な工法で課題解決に取り組みました。それを成し遂げたのは着工時から少数精鋭で取り組んだ職人たちの匠の技の結集です。

改めてすべての関係者に感謝すると共に、今後もこの劇場で様々なドラマが生まれることを楽しみにしています。



1. 国内最大級2000席のVIPエリアで新たなスタジアムビジネスを展開 2. 躯体と設備の露出を活かしたデザイン  
3. サッカーの新しい体験を追求したコンパクトスタジアム 4. 集中力を高める選手ロッカー

パナソニック スタジアム 吹田 計画概要	
● 建築主	スタジアム建設募金団体
● 設計者	(株)竹中工務店
● 施工者	(株)竹中工務店
● 所在地	大阪府吹田市 千里万博公園3-3
● 竣工日	2015年9月30日
● 敷地面積	90,065㎡
● 建築面積	24,695㎡
● 延床面積	63,908㎡
● 階数	地上6階、塔屋1階
● 構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造

観客動線も明快で、コンコースは全周を巡り、スムーズな入退場を実現するとともに、四万人が八分間で避難できるものとなっている。また、観客席の中段には二、〇〇〇席のバルコニーシートをもつVIPエリアがあり、多目的な利用を想定したスタジアムビジネスの展開が期待できる。

基礎を含む躯体の大部分のPCa化により六カ月の工期短縮を果たし、大規模建築の特性を活かした環境技術の採用によりC A S B E E Sランク、Nearl y Z E Bを実現している。さらに外装材はメンテナン スレスをめざして長寿命の工業製品を選定し、躯体や設備も隠すことなくミニマムデザインを徹底している。その結果、一席あたりの単価は見直し後の新国立競技場の二割以下に抑えることができた。

無駄を極限まで削ぎ落としていく姿勢は、鍛え上げられたアスリートの身体そのものを連想させる。今後のJリーグのスタジアムのスタンダードになることだろう。

【選考委員】 後藤春彦・能勢修治・栗山茂樹